

令和6年7月26日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

1 開 会 時 間 9 時 3 0 分

2 閉 会 時 間 1 3 時 5 5 分

3 教 育 長 名 和 田 智 司

4 署 名 委 員 岡 野 敏 彦

5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏 名
○	教育長	和 田 智 司
○	教育委員 教育長職務代理者	藤 原 直 彦
○	教育委員	杉 本 か お り
○	教育委員	古 正 栄 司
○	教育委員	岡 野 敏 彦

6 出席者氏名	教育部長	椎 野 文 彦
	教育総務課長	田 嶋 卓 司
	教育指導課長	倉 重 成 歩
	教育指導課課長代理	高 谷 松 慶
	生涯学習課長	山 下 昌 志
	教育指導課指導班長	安 藤 通 晃
	教育総務課教育総務班長	高 橋 梓
	教育総務課教育総務班主事	川 名 義 紀

7 傍 聴 者 14 名

8 調 製 者	教育総務課教育総務班主事	川 名 義 紀
---------	--------------	-----------

1 開会宣言

(教育長) 令和6年度7月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

岡野委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 7月政策会議結果報告を資料に基づいて行う。

(各課長・指導主事) 各課の事務報告・事業予定・研修内容について資料に基づいて説明する。

(古正委員) 町の総合防災訓練の時期をずらしたり、生涯学習課長の方からも話があったように、熱中症対策は本当にとっても大事だと思っている。過去には夏の大会は泥臭くて汗臭いのが良いなんて表現もあった。けれども、もうそんなこと言ってる場合ではなく、熱中症対策最優先で、様々なものを見直したり、場合によっては二宮町として教育委員会として声を上げていくことが、今後必要になってくると思う。様々なものを熱中症対策という視点で見直していただけたらと思っている。

(教育長) 実際に今中体連の方では県大会以上だと冷房の効いているところを使っていて、中ブロックでもできるだけそのような形で会場を押さえる対策をしている。特に外の種目は時間体を工夫したりもしている。年々暑くなってきているので、さらなる取り組みが必要とを感じる。

4 付議事項

(1) 請願第1号 二宮西中学校における自転車通学の実施について、アンケート調査を求める請願について

(教育総務課長) 二宮西中学校における自転車通学の実施について、アンケート調査を求める請願について資料に基づいて説明

(藤原委員) 通学路は、どのように決めているか。

(教育総務課長) 通学路は基本的に、学校保健安全法に定められていて学校長が決定することになっている。

(藤原委員) 二宮西中学校は、この請願については知っているのか。知っている場合、どんな意見を持っているのか。

(教育総務課長) 二宮西中学校にはこういった要望があることは伝えている。その中で、長い坂、脆弱な歩道、狭い自動車道、過去の重大な交通事故があったことが令和6年現在改善されている訳ではなく、むしろ悪化しているのではないかと考えている。峠公園を通らず国

道 1 号線方面を利用するルートも過去に検討したことがあったが、線路を渡らなければならず、坂道の状況もあり変わりが無い。アンケートをとって要望が多くても現在の通学路の状況では、安全と引き換えとはいかないと考えている。

(古正委員) 生徒や保護者の方の想いはとてもよくわかる。この事故等があったから現在までの間に、電動アシスト自転車が登場しているけれども、残念ながらこれは事故のリスクを軽減するためのものではなく、疲労や体力等の運転者のサポートをするための機能なので、自転車通学を許可するのは難しいと思っている。また、この 30 数年間の中で、例えば道路が広がったとか、自転車の専用レーンが設けられたとか、そういった安全面での改善がない中では、なかなか難しいと考えられる。相手を守ることだけではなく、自転車に乗っている生徒自身の命を守るという観点でも難しいと思う。また、アンケートをとることで、もしかしたら自転車で通学できるようになるかもと思わせてしまうのもどうかと思うので、アンケート実施については、反対である。

(岡野委員) 昔事故があり、安全に対する意識が重要だということはわかる。一方で二宮中学校は自転車通学ができています。二宮西中学校で自転車通学をどうするかを考えるきっかけとして、何かアクションを起こしてもいいと思う。アクションを起こしてそこで考えていくことが必要だと感じた。そのためのきっかけとして、いろんな条件つきになると思うが、アンケートをとって生徒達が実際どう思っているのかを共有していくことは良い事だと感じた。その前提として、安全をちゃんと担保し、考えて運用していくことを生徒達と一緒に考えていくことも 1 つの手と感じた。アンケートを取るにあたっての条件やアンケートの内容は十分に検討する必要があるが、アンケートをとることはやってもいいと感じた。

(杉本委員) アンケートに関しては実施しても良いと思っている。こういう声が実際上がっていることに対して、何もしないよりはやってみた方が良く思う。アンケートをしたからと言って決定するかどうかはまた別の問題。今いる生徒や保護者の声を 1 度聞いてみたいと思う。もちろん子どもの安全第一は本人も家族もよくわかっていることなのでそれを踏まえてもう一度検討する機会があっても良いと思う。

(藤原委員) アンケートをとることに反対です。本来であれば道の幅を増やすとか物理的なことの改善が見えたときに、二宮西中学校自体が、生徒にアンケートをとり、やっぱりやりたいとなるのがあるべきアンケートのやり方ではないかと思う。それが今回行われていないのは、大きく改善できているものがない中で、アンケートをやり、変更したいとなっても実行するには安全性が確保できないということなので、そういう策が取れない状況をわかっているながらアンケートを取ることに反対です。

(教育長) 自転車事故があった約 35 年前から、学区の道路及び歩道の状況が改良されていない。そのため自転車通学は非常に危険な状態にある。特に峠公園から下る長い急な坂は速度がどうしても上がりがちであり、特に危険。また小学生は徒歩で通学している。中学生の自転車通学と小学生のすれ違いでも危険を伴う。そのような形で増大する危険性があるということで反対。

(教育長) 委員に請願第 1 号について諮る。
賛成少数により、請願第 1 号は不採択とされる。

(2) 議案第 9 号 令和 7 年度小学校使用教科用図書採択について

(教育指導課長) 令和 7 年度小学校使用教科用図書採択について資料に基づいて説明

(岡野委員) 教科書会社からの供給に支障がきたすようなことはありますか。

(教育指導課長) 特にありません。

(教育長) 委員に議案第 9 号について諮る。

委員全員賛成により、議案第 9 号は承認される。

(3) 議案第 10 号 令和 7 年度中学校使用教科用図書採択について

(教育指導課長) 令和 7 年度中学校使用教科用図書採択について資料に基づいて説明

(教育指導課長代理) 教科用図書の採択について、これまでの経過を説明。

(教育長) 各委員に種目ごとに諮る。

〔国語の国語について〕

(古正委員) すべての教科書をかなり読み込んだうえで 2 つの教科書が良いと思います。まず「光村」は、一つ一つの教材の持っている力がすごいです。1 年生の「大人になれなかった弟たち」は、非常に切なく、つらく、苦しいと想いを抱かせるような教材でした。すごい力を持っている教材なのでどのような授業が行われるのか、また思春期の中学生がどのような想いでこれを読むのか。ぜひ町の中学生にこの教材で学んでほしいと感じました。一方、「東書」の 3 年生では、「何のために働くのか」という教材が取り扱われていました。中学生は、小学校と中学校を過ごし、これからそれぞれが選んだ道を歩むタイミングとなります。その子どもたちに対する素晴らしいメッセージと学びを提供するのが国語の教科書の役割だと思います。素晴らしい教材が掲載されていたので、ぜひこの教科書で学んでいただきたいです。

(岡野委員) 県及び町の採択方針、調査結果、趣意書等を確認し、自分でも教科書を読み込んだうえで、今回の教科書採択についてコメントさせていただきます。まず、国語については、「光村」「教出」「三省堂」が良いと思いました。教科書は、教科によってテンションをあげて楽しみながら取り組むもの、落ち着いてじっくりと取り組むものの 2 種類があると考えています。国語は落ち着いて取り組むものだと思いますが、「光村」は紙が薄い象牙色で、落ち着いた素材が使われていました。「東書」の 1 年生では、導入の単元の解きほぐし

が丁寧でした。2年生の「その言葉を信用できるか」では、一人の政治家を聴衆が取り囲むイラストが描かれており、各新聞社がどのように取り上げるのかを題材としていました。A新聞は、平然と無視したと表現し、B新聞は常に冷静さを失わなかったと表現したと紹介しており、言葉の選択で、伝わるメッセージが違ってくることを読み取れるものでした。「教出」は、同じ報道記事を読み解くにしても、共通部分と異なる部分を丁寧に分解して読み解くことが必要だと説明されていて、報道記事を読み解きが丁寧な印象でした。「光村」の2年生の「モアイは語る」では、全体の論旨を読み解く単元の作りがすごく丁寧に説明されていました。「三省堂」は、特に高学年の単元で報道記事の読み解きの工夫が組み込まれていて、情報記事の読み解きの単元の構成が国語力を鍛える上で丁寧に表現されているなど感じました。結果的に、「光村」か「教出」が有力候補だと思います。

(杉本委員)「東書」が良いと思います。「対話の学び」が3年間通して取り上げられており、3年生では合意形成の取り方まで丁寧に扱っておりとても良いと思いました。また、「未来への扉」では国際社会の題材としてウクライナを取りあげていたのも良いと思います。若い作家も取り扱っているのも良い印象でした。

(藤原委員)「光村」は昔から使用しているので安心を感じました。語彙ブックでは、感情表現など様々な言葉の表現や語彙を紹介していて、言葉に対する興味をひかせる内容となっているのは良いと思いました。

(岡野委員)「光村」は、1年生の導入で、「友達を増やすように言葉を増やしていこう」というメッセージがあり、言葉を大切にする「光村」の特徴をずっと読み取れる印象を受けました。単元の終わりの「学びへの扉」では、単元の読み解き方が非常に丁寧な印象で、国語力という視点からこういう部分は際立っていると思います。

(教育長) どの社も語彙を豊かにすることや読書活動を充実させる教材の工夫がされていました。現在の中学生に必要なものとしてはやはり語彙力だと思います。「光村」では3学年ともに語彙ブックがあり、実際の描写、言動、思考、コラムが紹介されていて、語彙を膨らませることのできるものだと感じました。

(教育長)「光村」の意見多数を受け、各委員に国語の国語「光村図書出版」について諮る。
委員全員異議なし。

〔国語の書写について〕

(杉本委員)「東書」の基本の点画の書き方が分かりやすいと思います。説明文とイラストがあり中学生でも入りやすいと思いました。「書写の鍵」も分かりやすく良かったです。「三省堂」のフェルトペンの使い方もすごく丁寧でした。「教出」は、見本が大きく中央線も引かれていて見やすかったです。また、行書の筆使いでは、手のイラストが描かれ工夫されていて読みやすいと思います。「光村」は、楷書から行書へステップアップする工程が、ページ数を多く当てながら丁寧に説明されており、「行書スイッチ」ではポイントもしっかりと

押さえていて使いやすいと思いました。

（古正委員）4社とも甲乙つけがたいですが、「東書」がいいと思います。行書の導入では、基本となる筆の使い方のパターンが丁寧に説明されていて、行書に初めて触れる子どもたちにとっても分かりやすいと思いました。常用漢字表は、「光村」が一番大きく太く書かれていて見やすく、子ども達が教科書を見ながら書く際に使いやすいと感じました。

（岡野委員）「光村」がいいと思います。文字を大切にしている印象でした。手書きの良さって何だろうというメッセージ性が強く、特に行書の単元の構成が丁寧でした。先ほどの意見でもありましたが、行書の特徴の捉えさせ方が際立っていると感じました。楷書と行書の違いを比較するページでは、文字の違いの比べやすさ、文字の特徴の捉えやすさが、視覚的にわかりやすく捉えられる構成となっていました。

（教育長）各社ともに毛筆と硬質の関連性が捉えられており、また学んだことを日常に生かされる工夫がされていました。その中で「光村」が良いと思いました。書写ブックが別冊になっていて活用しやすいと思います。書写学習の目的が明快に書かれていたり、手書きで伝わることの手書きの良さなども取り上げられていたりしました。また、自分らしい文字として著名人の手書き文字が紹介されており、書のあり方が一貫として感じました。

（教育長）「光村」の意見多数を受け、各委員に国語の書写の「光村図書出版」について諮る。

委員全員異議なし。

〔社会の地理について〕

（岡野委員）地理は空間の広がり把握するもの、歴史は時間の流れを把握するもの、公民は互いの関係性を学ぶものだと思えています。2022年GIGAスクールフォーラムで発表された、子ども達がデジタル教科書のICT画面のどこをタッチしているかのログをとった研究論文では、コラムを多くタッチしているという研究結果が発表されていました。その視点を踏まえ、今回コラムやインタビュー記事に着目してみました。インタビュー記事としては「東書」、「帝国」が良いと思います。「東書」では、世界各国のインタビュー記事を取り扱っており、例えば122ページに載っている南米の記事「ピラニアも食べます」は、タイトルだけでも現地の特徴をしっかりと捉えていました。「東書」はインタビュー記事が16個、「帝国」は17個掲載されていました。現地の人言葉をインプットする方が印象に残ると思います。「東書」は特に、「聞かせて中学生」というタイトルで現地の同世代のインタビュー記事を取り扱っていて、このあたりの構成が世界の情勢を把握することに際立っているのかなと思います。「帝国」は「地理プラス」、「アクティブ地理」の囲み記事が充実していました。インドをIT国家として取り上げられている点やアジアの経済成長などに注目している点は、情報の新しさを感じることができました。「教出」では中国から見た日本列島が掲載されており、相手の立場からの視点を取り上げている点良いと思います。「帝国」、

「東書」のどちらかが良いと思います。

(藤原委員)「帝国」の「アクティブ地理」の題材が多種多様で、色々な考え方もあり、問題解決を学習するのに適していると思いました。深く学びたい生徒にとって良いと思います。

(古正委員)各社の情報量、写真のどれもが充実しており、またそれらがコンパクトにまとめられていました。その中で違いと考えると、町で推進している小中一貫の視点が関係してきます。各社ともにページの下に他教科との関連性が掲載されていますが、「帝国」はさらに小学校との関連も掲載されているところが良いと感じました。

(教育長)4社とも素晴らしく、生徒が多面的、多角的に考察できる工夫がされていました。町の両中学校では鎌倉市に校外学習に行っているので、「帝国」の「アクティブ地理」で鎌倉市のハザードマップが丁寧に紹介されており、身近な題材が取り扱われている点が良いと思いました。

(古正委員)ハザードマップは「帝国」が一番見やすいと思います。

(教育長)「帝国」の意見多数を受け、各委員に社会の地理の「帝国書院」について諮る。委員全員異議なし。

〔社会の地図について〕

(岡野委員)「東書」「帝国」で悩みましたが、「帝国」が良いと思います。両社ともに情報量も新しさも良かったです。「帝国」は先端産業の記載については、2022年3月の記事、理科年表は2023年版となっていました。特徴的だったのは時間地図のようなもので、通常であれば距離を基準に地図を描くのに対し、都心からの到達時間で地図を描いており、物理的に遠く離れた都市がすぐ隣に並んで、日本列島がぐにゃっとゆがんで描かれていました。日本の交通網の発達を存分に実感できると思いました。色々な視点で日本を捉えていくことができるという点も含め、「帝国」が良いと思いました。地方の地図などでは、文字の縁取りがしっかりとされているので、情報量が多い中でも見やすくなっています。

(藤原委員)「帝国」は、QRコードからリンクしているウェブコンテンツが充実しており、生徒も楽しめる内容となっていました。

(古正委員)「帝国」、「東書」どちらも良くできていますが、「東書」が良いと思います。地図帳は必要な時に開くという概念でしたが、「東書」では各ページで質問を投げかけられているので考えるきっかけに繋がります。またQRコードを読むと回答例も見ることができます。単なる資料としての地図帳ではなく、考えて仲間と議論することができる地図帳だなと思いました。

(杉本委員)「帝国」は、索引が色分けや記号が使用されていて見やすくて良いと思いました。

(教育長) 2社ともにデータ量に差はないと感じます。「東書」ではページの中で課題を出し、QRコードからその回答を見ることができます。一方で、「帝国」のアジア州の鳥瞰図では、ヒマラヤ山脈やチベット高原などの地図をQRコードで読み込むことで、拡大して見ることができるので、実感がある学びができて非常に良いと思います。それらの点を踏まえ「帝国」が良いと思いました。

(岡野委員) 立体的に見えるのですか。

(教育長) 教科書の地図を拡大して見ることができます。紙では限られた大きさでしか見ることができません。

(教育長) 「帝国」の意見多数を受け、各委員に社会の地図「帝国書院」について諮る。
委員全員異議なし。

[社会の歴史について]

(藤原委員) 各社ともに多種多様だと思います。「帝国」の「アクティブ歴史」は、様々な観点から学びを深められるなど感じました。思考を深めるという意味で良い教材だと思います。

(古正委員) 「山川」と「帝国」が良いと思います。「帝国」は各章の最初にその時代の様子を表したイラストが掲載されており、見つけて、考え、対話する社会科になっているなど感じました。先ほど小中一貫の視点と話をしましたが、小学校でも各章の始めのイラストを見て考えるという流れで学習しており、小学校のパターンと非常に似ていると思いました。「山川」は、日本と世界のその時代の動きが非常に分かりやすく解説されていました。例えば鄭和の麒麟など、こんな情報をよくとりあげているなどと思うような情報も掲載するほど情報量がすごく、読んでいて楽しく、歴史をもっと知りたくなるような作りの教科書だと思います。

(岡野委員) 高校の学習指導要領を確認してみました。日本史Aと世界史Aが歴史総合として統一され、それぞれのBが歴史探求となっていました。必須教科の歴史総合は主に近代史になっているため、歴史を通史で学ぶのは中学校が最後になるのではないかと思います。「東書」は、教科書の始めに、歴史全体の流れをつかむための歴史を俯瞰するページがあり、とてもユニークだと思います。見開きページに歴史の登場人物を2等身で描いて楽しさもありますし、通史をしっかりと見通せるという意味で見開きのページは非常にインパクトがあります。「帝国」は単元の最初にウォーリーを探せのような俯瞰図があり、この中から探し出そうとするプロセスが非常に大事だと思いました。その時代の様子を俯瞰して探し出せるのがいいと思います。また、どのページをめくっても、ページの端に年表が書かれていて現在地が分かる工夫がされているのも良かったです。「アクティブ歴史」、「歴史プラス」のコラムも非常に充実しています。最後の単元を比べた時に、未来を感じたのは「帝国」でした。「国際社会におけるこれからの日本を考える」などで

は、なぜ歴史を学ぶのかについての強いメッセージが込められているように感じました。歴史は繋がっており、未来を考えるために過去の歴史をしっかりと学ぶことが大事であることを、この部分で強いメッセージとして感じ取ることができたので「帝国」が良いと思いました。

（杉本委員）「帝国」の「タイムトラベル」では歴史を表すイラストやコラムが工夫されていてとても良かったです。「東書」は、国宝、重要文化財の地図が掲載されており非常に良かったです。

（教育長）「帝国」は、主体的、対話的で深い学びができるように、また指導と評価の一体化が実現できるように、単元を貫く問いが一貫していると感じました。章の終わりの「タイムトラベル」では歴史的な見方や考え方を振り返り、自分の考えをまとめる場面が設定されていて良いと思いました。

（岡野委員）どちらも甲乙つけがたいですが、いくつかの点で違いがあり、やはり「帝国」が良いと思います。

（教育長）「帝国」の意見多数を受け、各委員に社会の歴史「帝国書院」について諮る。委員全員異議なし。

〔社会の公民について〕

（岡野委員）「教出」か「帝国」が良いと思います。「教出」は、公民という位置づけを小学校からのフローという形で分かりやすく提示していました。「帝国」も同じく一目瞭然に表現されていました。公民は、人とのつながりの中の対立と合意ということが大きなテーマの一つかなと思います。2社は具体的な議論のシーンとして、合唱コンクール、地域ルール、避難場所、マンションの騒音など、どちらも実践的な例題を掲載していました。町ではコミュニティ・スクールがあり、地域との接点を活用する視点にあるので、地域ネタをしっかりと考えていけるきっかけになると感じました。一方で、個人の尊重と憲法のテーマでは、「東書」、「帝国」が良いと思いました。「東書」は、「違いの違い」であってはない違い、あっていい違いが分かりやすく掲載されていました。「帝国」は、身近な町の困っている人々の様子をイラストで町の俯瞰図として表しており、身近なことが憲法に関係していることがわかる工夫が感じられました。最後の単元では、「帝国」は課題探求のプロセスが非常に丁寧で、高校への進学の準備も含め一段上で考えていける単元の構成になっているのが特徴として感じました。「帝国」、「東書」が有力だと思います。

（杉本委員）「東書」が良いと思います。「決まりをつくる目的と方法」では、決定する方法を6つ提示していて、より選択肢が増えて良いなと思いました。また、子どもの権利条約についても丁寧に扱っていました。「違いの違い」は非常に面白く、違いを深める機会があつて良いと思います。18歳や20歳でできることなど、将来を見据えた単元があつた

のも良かったです。

（古正委員）思考ツールをつかって考えを整理するという点で「日文」か「帝国」が良いと思います。「帝国」は、さらに数多く実生活に結び付いた問題を取り扱っていました。中学校の公民で求められるのは、日常的にひっかかるようなものを学ぶことだなと感じた時に、「帝国」が良いと思いました。伊勢原市の石田牧場が取り扱われており、子ども達にとって身近な話題は興味につながると思います。

（教育長）最後の章の課題を追求し解決する活動では、各社ともにより良くなるための工夫や配慮がされていました。言葉や表現は異なっていますが、学んだことを最後に深められる工夫がされていました。その中でも「帝国」はそれらのまとめの部分で、①自分で課題を決めよう、②資料を集めよう、③考察しよう、④レポートを書こう、⑤発表しようと分かりやすく紹介していました。また「アクティブ公民」の「対立と合意」の部分では、マンションの騒音問題を解決しよう、民主主義のあり方を考えようなどがテーマとして設定されており、対話を通じて多面的、多角的に考えられるように構成されていると感じました。最終的に「帝国」が良いと思いました。

（教育長）「帝国」の意見多数を受け、各委員に社会の公民「帝国書院」について諮る。
委員全員異議なし。

〔数学の数学について〕

（岡野委員）「東書」、「啓林館」でそれぞれ特徴がありすごく悩みました。町ではしばらく「啓林館」を取り扱ってきている歴史があるので、「啓林館」の教科書に沿った授業の組み立てができているのかなと思います。数学ができる子が多い一方で、苦手意識がある子もいるので、両方に配慮が必要です。「東書」の1年生では、第0章で数の性質をしっかりと理解してから、第1章の整数に入れる作りになっています。ここの部分では小学校から中学校のつなぎを感じられました。9ページに渡って、九九表に並んでいる数字の性質の読み取りから、素因数分解、累乗、倍数、素数などのキーワードもちりばめられており、整数の性質をしっかりと染み込ませる役割が、この第0章にあるのだと思いました。まさに小学校から中学校への数学の橋渡しだと思います。一方巻末を見ると、各社ともに子ども達の苦手部分を補うテーマを取り扱っていました。表記の仕方としては、全体的を網羅するパターンと、苦手部分を集中的に取り扱うパターンの2種類がありました。網羅型が「東書」、「教出」、「大日本」、「数研」。集中型が「啓林館」、「学図」、「日文」でした。三角形の合同条件では、条件によっては1つに決まらないことがあるのですが、「東書」と「学図」は章の冒頭でそのことを説明しているので、念頭に置きながら単元を学んでいける構成になっています。他社は、その条件が発生したあたりで紹介していました。課題設定という意味では、冒頭に説明されている方が理解しやすいと思います。データの活用ではヒストグラムがあるのですが、平均値、中央値、最頻値の数値とグラフの形の関係性

を「東書」はとても丁寧に説明されていました。ある単元では、サッカーチームの設定をもとに設問を解いていくのですが、単元の最後まで、そのストーリー性を感じながら取り組める単元構成になっていました。結果として「東書」が良かったと感じました。

（古正委員）昔の自分が使用していた教科書とだいぶ変わっていて、読み物としても楽しめるなと感じました。身近な問題が多く取り上げられていて、数学は入試のために仕方なく勉強するものではなく、身近な課題を数学を使い解決するのだと思えるような構成になっていました。そのような中で「東書」が一番良いと思いました。身の回りの課題解決のために数学が使えることが分かりやすく表現されていました。数学を勉強するモチベーションが一番上がる教科書かなと思います。また、スポーツ栄養士と数学を取り扱ったページでは、仕事を進めるうえでどんな場面で数学を活用するのかが掲載されているのですが、単に数学だけでなく職業のやりがいについても触れられているので、キャリア教育の視点も兼ねているなと感じました。

（杉本委員）中学校になる子どもがいるので親目線からみても、「東書」は導入が丁寧で、イラストも柔らかく、数学に苦手意識を持たず取り組めるかなと思いました。

（岡野委員）「東書」の表紙がすごくいいと思います。1年生では上下対象、2年生は図形の直線、3年生では放物線がイラストの中に組み込まれていて、身の回りのものに数学がちりばめられているというメッセージ性が感じられました。数学を身近なものに感じてもらう工夫があると思いました。技術系の職業に携わる者としては、基本的なところに徹底的にこだわる「啓林館」へ想いも捨てがたいと思う部分がありますが、随所に先ほどのような工夫が盛り込まれているのが「東書」の特徴かなと思いました。

（教育長）基礎をしっかり押さえる大切さとそれを活用する視点で比較してみました。多くの教科書で数学を活用した人物紹介があるのですが、「東書」は1年生ではスポーツ栄養士、2年生では気象予報士、3年生では渋滞学の研究者を取り扱っており、職業観を培われるような点で優れていると思いました。「数学の窓」として、PDCAサイクルを用いて、身近な問題を解決するような方法を考えたり、データ処理したりする取組があり良いなと思いました。また一貫するストーリー性も良いと思います。

（教育長）「東書」の意見多数を受け、各委員に数学の数学「東書」について諮る。

委員全員異議なし。

〔理科の理科について〕

（岡野委員）理科はテンションをあげて楽しんで取り組んでもらいたいという気持ちがあります。誌面の大きさや写真のダイナミックさなどが大事な要素になると思います。一方で現象をどのように捉えていくのかをモデル化して単純な絵で描いていけるのかも、理科の大事なポイントだと思います。その点では、「啓林館」、「東書」が良いと感じました。子どもたちの苦手分野とされる物理では、小学校とのつながりを意識し、小学校で学んだ

振り返りがかなり丁寧に説明されているのが「啓林館」や「大日本」でした。例えば、「啓林館」では飽和水蒸気量のモデル図が立体的でとても分かりやすかったです。この他にも随所のモデル図が一番シンプルで分かりやすかったのは「啓林館」でした。一方で、植物の観察の視点では、花のつくりを分解して考えることについて観察のプロセスが丁寧に説明されていたのは「東書」でした。「啓林館」では、目的を設定して方法を考えて結果を見出して考察するという思考のプロセスが、とても丁寧に説明されていました。光の性質の単元をみても、光がどのように進むのかの設問の近くに適したイラストが配置されていました。「東書」では森にスッと光が差し込むイラストが、「啓林館」では水中にまっすぐ光が差し込むイラストが挿入されていました。単元の質問に対してイメージしやすい構成になっているのを感じました。特に、「啓林館」はグラフの描き方がとても丁寧でした。実験で得た数値を丁寧に点で落とし込み、全体をなめらかな線若しくは直線でつなぐことの大切などをメッセージとして伝えていました。また、そのグラフの近くには、なめらかな線とのズレが誤差であることの説明が添えられていました。近似と誤差、有効数値は、研究分野において非常に重要な要素なのですが、常に3点セットで取り扱っているのが「啓林館」でした。巻末の「探求もフェアプレーで」というメッセージでは、他の研究者の敬意を払うことの重要性が書かれていて、エンジニアとしての重要なマインドを感じることができました。

（杉本委員）「学図」がいいと思います。写真がとてもきれいで、章の始めにダイナミックな写真が使用されているのが良かったです。またキャラクターの吹き出しが、疑問やヒントなどのポイントが押さえられていて分かりやすいと感じました。「東書」の元素記号表が非常に魅力的でした。

（古正委員）各社とも素晴らしいと思います。学校教育や教科書はどのようにあるべきかと考えた時に、義務教育の9年間のどこの場面にも人権教育、キャリア教育が垣間見えるかが重要だと思います。その視点では「啓林館」が良いと思いました。2年生の科学コラムでは、ケーキ屋の方、盲導犬の訓練士、気象予報士などの話が取り扱われていたことなどを踏まえると、あえて言うなら「啓林館」だと思います。

（教育長）実験、観察を通してということが大事なキーワードとしてあるのですが、各社ともに継続的な観察、季節を変えての定点観測の比重が上がっているなど感じました。データ処理の仕方が「啓林館」が非常に丁寧だと思いました。「啓林館」のQRコードではNHK放送スクールにリンクしており、動画で確認できるようになっています。学校の授業での活用だけでなく、自分自身でも振り返りができる工夫がされているなど感じました。

「東書」の「科学の本棚」では書籍から学ぶことも紹介されていました。非常に悩みましたが、最終的には「啓林館」がいいと思いました。

（教育長）「啓林館」の意見多数を受け、各委員に理科の理科「新興出版社啓林館」について諮る。

委員全員異議なし。

〔音楽の一般について〕

（杉本委員）「教出」が良いと思います。歌うための準備で姿勢や母音の発音のページがあり、イラストもあってすごく丁寧にわかりやすく良いと思いました。また、指揮の仕方について、基本の形を身につけようというページがあるがそこでフェースボールを例えて使っていてとてもわかりやすく良いと思いました。

（岡野委員）「教芸」が良いと思います。最初の音楽の入りにいろんな国の人の写真が出ていて、音楽は万国共通というメッセージ性を強く感じた。続けて音楽を形作るメロディーや音階などがどういう要素で組み立てられているのかが、冒頭や巻末に集中的にまとめられたところがあり音楽そのものを形づくっているものの仕組みが徹底されていると感じました。一方で変声期の注意、声変わりの時期なので、声がガラガラになっても無理しないで発声することが書いてあるのも良いと感じた。また、著作権に関する注意や意識づけみたいなものが随所に散りばめられているところも良いと思いました。

（古正委員）難しそうな解説がなくて、イラストがあり自分でやってみようと気軽にチャレンジできる工夫がされているのは、「教出」だと思います。一方で民謡歌集の歌う様子や日本の音階などが、QRコードで見られるようになっていて理解がより一層深まるのは、「教芸」だと思います。音楽の専門でない私が音楽の授業をやるとしたら、「教出」の教科書で教えたい。一方で、音楽家とか、専門的に音楽を学んできた方からすると、「教芸」の教科書を使って二宮の生徒達に、教えてもらった方が良いのか悩んだところです。

（教育長）2社だけにそれぞれ良さを感じた。親しみやすいのが「教出」。一方で「教芸」は、コンテンツが豊富で専門性を重視していると感じました。二宮の中学校を考えたときに、全ての活用の仕方を工夫するということで、「教芸」の方が良いと思いました。

（古正委員）今現在も「教芸」の教科書が採用されているのは、教科の専門家がより質の高い授業をやろうと思ったときには、「教芸」の方を使って教えたい、それを生徒達に与えたいと思うと感じました。

（教育長）「教芸」の意見多数を受け、各委員に音楽の一般の「教育芸術社」について諮る。
委員全員異議なし。

〔音楽の器楽について〕

（杉本委員）太鼓について丁寧に長く扱っていて、二宮町ではお囃子をやっている生徒も多くて、身近に感じられると思い「教出」が良かったと思います。

（古正委員）どちらも良いと思う。どちらも全く同じというよりは、それぞれの出版社の特色が出ていたと思いました。例えば「教出」は、ストリートピアノの写真から始まっている。これは会社の方針かもしれないけど、演奏するのも、音楽を聞いて楽しむのも気軽にやろう。

そんなに難しいことじゃなく、本当に生活の一部として、音楽はあるという会社の理念が感じられるそんな1枚の写真だった。教科書全体を眺めてみると、やはりそんな構成になっていると思いました。「教芸」については、クラシックギターだけではなく、フォークギターやエレキギターも取り上げられている。生活の中で身近に触れられるのが、フォークギターとエレキギターです。「教出」はクラシックギターだけが、器楽の教科書の中に取り上げられていたが、ギターはこれじゃないと思いながら見ていた。より専門性に特化しているのが「教芸」だと感じています。

(岡野委員) どれも充実していて、正直、甲乙つけられなかった。取り扱っている和楽器は、双方とも十分に載っていると感じました。ただ、より専門性が高いという視点で見ると「教芸」が良いと感じた。

(教育長) 音楽文化、特に器楽の文化の理解について多様な音楽を身の回りの生活や社会と関連させながら、学習をしていこうという工夫に両社の特徴があると思いました。その中で、QRコードの内容は2社とも良いと感じました。「教芸」は、1ページから2ページに、中学生の器楽の学習内容が取り上げられている。それは、教材と学習内容との関連性が非常にわかりやすいと感じました。また、2社ともリコーダーを扱っているが、「教芸」は、学びのコンパスでより深く丁寧に扱っているので二宮の中学校にとっては良いと感じました。

(古正委員) リコーダーのところだけで振り返ってみると、「教出」は、練習がスモールステップで段階的に進める工夫がされている。「教芸」はリコーダーができる、できるからアンサンブルも楽しむみたいな構成になっていると感じました。これは専門性を感じました。生徒達にしてみると「教芸」はわくわくするのかもしれない。だからそういう意味では、中学校の教科書と考えると「教芸」だと思っています。

(教育長)「教芸」の意見多数を受け、各委員に音楽の器楽の「教育芸術社」について諮る。
委員全員異議なし。

〔美術の美術について〕

(杉本委員)「開隆堂」の表紙に凹凸があり工夫されていて魅力的に感じた。また美術の用語のページがあって、言葉の説明がわかりやすかった。またSDGsも、取り扱っていてちょっとした環境を考えたコラムが載っていて良かった。「ずっと木と一緒に」で木工の分野が始まり、陶器には「炎とともに生きる」で始まるなどタイトルが個性的で良かった。最後のまとめの方も技術と私と社会ということで、美術と共に生きていくっていうかメッセージもよかった。

(岡野委員) 美術は「開隆堂」か「光村」で悩みました。「開隆堂」は美術は自分の思いを表現することから入っていて、要は自分事としてまず捉え、その次に、国宝とか重要文化財などアートに近い部分のことも順番に触れていく構成になっていました。美術と社会の関係みたいな視点で見るとデザイン工芸とかプログラムとか商品のパッケージとか、純粋に

美術というよりもそれを社会の中で生かしていく流れになっているところが特徴だと思います。「光村」は、そもそも最初に美術って何だろうっていう問いから入っていて、そのメッセージ性が高いと感じました。もちろん1日の生活とデザインとか文字のフォントを使ったデザインみたいな要素もあるでしょうけど、中心的な部分が鑑賞力を育てていくところに焦点が置かれている教科書なのかと感じました。自己表現と鑑賞力って相反する訳ではなくて、鑑賞するときに、ピカソのゲルニカを見たときに、あれがピカソの自己表現という視点で見ると、単に絵柄が面白いと見るのって全然違うと思う。鑑賞力を育てるのは大事な要素であるので、その視点では「光村」が有力だと思います。「日文」にも捨てがたいところがあります。フォントの面白さを伝える單元では「やる気のない日の晩ご飯」というポスターを描く題材の「やる気ゼロ」の文字が協調されていて、単元の素材が面白いと感じました。「リボンの騎士」のフォントのようなセリフがついたフォントの楽しさも載っていました。

（古正委員）推したいのは「光村」と「日文」です。「光村」については、まずカラーユニバーサルデザインの学びを教科書の中で扱っているところがすごいと思いました。それから、この別冊になっている美術の資料が良いと思いました。これ3年間ずっと側に置いて、美術の授業で使いたい。あるいは美術的なものに興味のある生徒は、これを見ながら、絵を書いたり、イラストを書くときに使える。また体育祭とか文化祭でポスターを作るときにも使えると思いました。「日文」については、美術で学んだことが日常生活に役立つ例として、お皿の色によって料理はこんなふうに引き立つよっていうのが載っている。だから色について学ぶと、こんなに豊かな日常生活が待っているっていうのが伝わってくる。それから色によって、自分の感情が表現できるとか、部屋の色遣いによって、見え方が違ってくるのが写真でわかりやすく、色の学習のところに使われている。そうすると、他には色によって、どんなことが変わってくるのか色についてもっと学びたくなる。そんな作りになっていました。それから火焰型土器の写真が、圧巻だった。この写真だけで縄文時代に、こんな高い芸術性を持っていたのか、自分たちも粘土を使って作ってみたいなんて、そんなふうにモチベーションが高くなるような、良い教科書だと思います。

（教育長）図画工作から美術に変わるということで、それについては3社とも非常に丁寧に扱っていると思いました。これに関しては、中でもやっぱ「開隆堂」は非常に丁寧に扱っていると感じました。二宮町の両中学校では昇降口や体育館までの廊下にタイルのモザイクでゲルニカの様子が畳十畳分くらい貼ってある。美術の教科書をどう使うか以前美術科の教員に聞いたことあるが、多くは観賞用で使っている。そういう中で「光村」の60から65ページにあるゲルニカの両面見開きの部分にピカソの写真も紹介されたり戦争の様子があったり、それはどうして作られたのかが載っていて、二宮町の両中学校には扱いやすい教科書だと思います。あとは別冊の資料が非常にわかりやすく、色相環とか様々な色が、生活からも出ている、また日本と世界が違う、そういうふうに使えのが良いと感じました。

(教育長)「光村」の意見多数を受け、各委員に美術の美術の「光村図書出版」について語る。

委員全員異議なし。

〔保健体育の保健体育について〕

(古正委員)「大修館」と「学研」を推したい。「大修館」については心身の発達と心の健康の学びのところに、特集資料として性の多様性について、2ページに渡って詳しく書かれている。日本では、性的マイノリティの人たちの割合が、4%とか8%とも言われているが、差別や偏見のない社会づくりの上で、とてもすばらしい教科書だと思いました。一方、「学研」については、実は私は4年半前に、余命宣告をされた末期がんの患者です。だから、それぞれの教科書会社のがんについて、どう扱っているかをものすごく詳しく調べました。そういう視点で見たときに、「学研」は良いと思いました。健康な生活と病気の予防の内容をじっくり検討したが、がんとその予防治療法、それから、がんとともに生きる、がん患者とともに生きるというページがよく書けていると思いました。医療ソーシャルワーカーさんの話はどれを取っても二宮町の中学生に知って欲しいし、ここで学んだことを、もし自分の身の回りに、今日本人の2人に1人のがんになると言われている時代なので、家族や身内にがんやがんでなくても立場の弱い人がいるだろう。そんなときに、どんな気持ちでその人に寄り添って欲しいか、あるいはその人の立場を理解して欲しい、そんなことを学べる。もうナンバーワンの教科書が「学研」と思いました。

(岡野委員)「学研」と「大日本」の2つが有力と感じました。もちろん、各社それぞれ工夫されていると感じましたし、最近で言うと気持ちが疲れちゃった子ども達が、どこにSOSすればいいのか各社載せてあるのですが、教科書の冒頭に近いところに載せてあるもの、中盤のストレスの単元に近い位置に載せてあるもの、最終単元のあとに付録として載せてあるものなど、それぞれ特徴があると感じました。その一方で、「学研」は、まずスポーツから入る。要するに一番元気な理想的な姿をイメージした上で保健体育を考えているというメッセージ性が一番強いと感じました。あと、コラムの記事がとても多い。コラムの位置も、咀嚼して理解するために適度な位置にあると感じました。また紙面のアイコンが多い、見開きの紙面をフル活用していると感じた。その一方で、「大日本」は、見開きのページ構成がかなり統一されていました。左ページに本文が、右ページにそれに関連した資料集が並んでいるという構成が一貫していて、理解が進みやすいと感じました。また、緊張しているときの自分の症状が「お腹が痛い」「のどが渇く」のように具体的に書かれていました。子ども達には伝わりやすく、自分の体の反応を理解していくことが自分との向き合い方っていう意味で重要だと感じました。

(杉本委員)「東書」がよかった。巻末スキルブックという健康安全に関する20のスキルをまとめたものがあって、使いやすくて見やすくて良いと思った。そこには心肺蘇生方法や、熱中症や野外スポーツでの注意事項など、本当に命に関わるものがまとめてあって、

子ども達も読みやすく、ちょっとした知識を頭入れてもらおうと嬉しいし、最後に持ってきた工夫が良いと思いました。

（教育長）4社それぞれ工夫されて素晴らしいと感じました。その中でやはり古正委員から話がありましたが、やっぱり子ども達は生涯にわたって心と体の健康を、維持増進できるようなことを養うことが大きなポイントと思いました。「学研」の導入部分で、スポーツには世界を変える力がある。この部分が非常に印象に残っています。実際に写真があり、QRコードで読み込むと、それぞれの解説が出る。そこは記録を残すとか、結果を出すだけじゃなくて本当の心を育てるってことにもなるのかと思いました。それと各社とも資料を豊富に使っているが、巻末ではなく、その資料の下にどこの出典で何年ということも明記されていて丁寧と感じた。丁寧に書いた方が子ども達は、すぐわかりますし、ちゃんと資料としての活用としては、大事な部分だと感じました。

（教育長）「学研」の意見多数を受け、各委員に保健体育の保健体育の「Gakken」について諮る。

委員全員異議なし。

〔技術家庭の技術について〕

（古正委員）3社とも良かったが、中でも「教図」と「開隆堂」が良いと思いました。

「教図」については、エネルギー変換の技術の単元のところで、その技術の利用例の一覧が載っている。それぞれの説明が順番に出てくるのではなく、まずはエネルギー変換ってというのが、身の周りの中でこんなところで使われているというのが一覧になっていて、全体を見通すことができる単元全体を俯瞰できる構成になっているところが工夫されているなと思いました。それからあとは、作物の栽培における気象的な要素に、風通しのよさを上げている。これは他社にはなかったかと感じました。私は農家をしているので思いますが、風通しの良さは本当に必須条件です。だからそれをちゃんと取り上げているところが良い教科書だと思いました。「開隆堂」について思ったところは、生物育成の単元である家の食卓の料理に使われている食材がどのように生産されているのか。その生産や商品に関わる人たちのしたいこととか、なっていて欲しいとかってという願いに触れるところから学習が始まる。この願いから始まるって、生産する大事な要素です。ここから始まっているのが心の通ったすてきな教科書だと感じました。

（杉本委員）「教図」について話させてもらおうと、スキルストックアシストっていう別冊がついていてこれ本当にわかりやすく、よくまとめてあってこのまま持って歩けているいろいろなチェックできる良さがある。また安全衛生に関して、マイナスの側面ちゃんと取り込んでいて、そこを丁寧に扱っていて見やすく良かったと思います。

（岡野委員）「東書」が良かったと思います。資料全般として教材そのものが先進的と感じました。紙面構成では、見開きページ周辺部のアイコンがかなり充実していて、紙面を

フル活用して、いろんなところに興味を持っていこうとしている工夫が読み取れました。キャリア教育っていう視点で見ると、「〇〇さんに聞いてみよう」のようなインタビュー記事が一番多く充実していた。技術1個1個の詳しい説明よりも、教科書を通して技術そのものを楽しもうっていうメッセージがものすごくよく伝わってくる内容でした。特に表紙に先生や保護者へのメッセージがあって、技術の楽しさを共感しましょうというメッセージ性が表現されていると感じます。中の単元の構成も、社会のニーズから入りそれを技術で解決するというマインドが徹底されていたと感じます。技術そのものを楽しんで取り組んでいく、そのメッセージが色濃く出ている教科書だと感じました。

（教育長）技術科と家庭科は実際に中学1・2年生は週に約1回、3年生になると2週間に1回の割合になる。技術ということで、小学校にはなかった教科ですので導入の部分を丁寧に見させてもらいました。3社とも非常に丁寧に私たちの日常の生活に目を向けてそこから技術の見方の考え方をやっていこう、小学校の教科との関連をとらえながら編集されているのを感じました。「教図」は技術を見つけ、次はどんなことを学ぶのかっていう導入があり、「開隆堂」はようこそ新たな学びへ、ようこそ技術の世界へと非常に丁寧に紹介されていた。一方で「東書」は、SDGsとテクノロジーとの関連性を踏まえながら、この問題の解決法をみずからの課題としてとらえてその部分での扱いが非常に丁寧だと感じた。

（岡野委員）技術はなんだろうという見開きのアニメのページがあって、社会で役立てるために、技術がすごいだけでなく、それが安全である必要もあるし、価格を抑えることもあるし、効果をちゃんと発揮する必要もあるし、エンジニアリングそのものが抱えている悩みをアニメで紹介している。エンジニアは自分のこだわりだけでやっている訳じゃない。しかもそれを言いやすく皆さんにこう安全に提供するっていうエンジニアのマインドみたいなものが、アニメで紹介されているのが実践的で良いと感じました。個々の単元に載せてある技術も大事ですけど、何のためにその技術開発をやるのかというメッセージ性が一番強く出ていたと感じた。

（教育長）「東書」の意見多数を受け、各委員に技術家庭の技術の「東京書籍」について諮る。

委員全員異議なし。

〔技術家庭の家庭について〕

（杉本委員）3社のよかったところを話しますが、「開隆堂」は、子どもの成長と地域のところで、居場所事業をやっている場所とか、プレーパーク、子どもの権利条約についてしっかりと取り扱っていて好感が持てました。また先輩からのエールのコーナーが、将来の人生の選択肢が増えるようなとても良いコラムがありました。あと、別紙ですが、とても見やすくて、調理のQ&Aに注意事項がまとめられていて、非常によくできたレ

シピだと思いました。「東書」は衣類についている洗濯の表示の説明が一番わかりやすく、洗濯物の干し方がとても丁寧で一番わかりやすかったです。「教図」は、まず開いてすぐ年中行事と私たちの暮らしの繋がりということで本当に家庭科としてすごく大事なテーマで1月から、12月まで季節の行事を絵とか写真入りでとてもわかりやすく書いてあって、最近失われているところをしっかりと抑えてくれてとても良いと思いました。あとは、災害時の食生活を考えようというところで具体的にポリ袋を使った調理例でご飯の炊き方が書いてあって、本当に使える情報として、とても有力だと思いました。またフェアトレードについてしっかりと扱っているところやリデュース、リユース、リサイクルなどエコの観点や社会問題もバランスよく触れていて「教図」とても良いと思いました。

（岡野委員）どれも甲乙つけがたいと感じましたが、とはいえ「開隆堂」と「教図」が良いと思いました。まず、「東書」は、食べ物系の写真がとても綺麗で安心できる自然な色合いの写真がそろっていました。あと紙面のアイコンが豊富。この辺は先ほど言った技術の教科書と基本的には共通している項目だが、アイコンの充実、欄外の問いかけが随所にあって、紙面をフル活用している感じがしました。一方「開隆堂」は、特に子育てに興味関心を持てる内容になっていたのが第1印象です。小さい手形足形のスタンプがあり、実寸大で載っていて、今の自分の手足と比べると、大きくなったと率直に実感できる内容になっていると感じます。「教図」も同じように、幼児と高齢者に関する単元は幼児に関する関連の比率が高くて、子育てに関心を持ってもらいたいというメッセージ性が強く感じました。また、特に食生活に折り込みの資料があって、ボリュームと充実性、資料性っていう意味で言うと、ここの魅力が高いというのは感じた。

（古正委員）家庭科に関しては、教える内容がある程度でき上がっている状況と思うが、中でもバージョンアップをしていかなきゃいけない内容は、消費者教育の部分と感じています。消費者教育という視点で、3社見比べてみると、私は「教図」が一番よくできていると思いました。消費者の権利と責任、それから消費者を守る仕組みなどがとても詳しく書かれている。もうナンバーワンの教科書と思いました。一方で、学校教育とか授業は、常に人権教育とキャリア教育の血がどこを切っても流れていなきゃいけない。家庭という教科の中で大切にしたいのは、ジェンダー平等教育だと思っている。その視点で見ると、「東書」は、表紙に自立と共生を目指してと書いてある。裏表紙のところの保護者の皆様のところにも自立と共生をテーマにとはっきり書いている。つまり、会社の教科書づくりの理念がここを大事にしているというメッセージ。この教科書で二宮町の中学生に学んで欲しいと思います。ただ、「開隆堂」も良いところがあり、今二宮町も進められているパートナーシップ制度を導入する自治体が大分増えてきたと思っていますけれども、まだ日本国内では同性婚については、正式には認められていない状況です。しかしながら、多様な家族のあり方っていうのはもう明らかに、50年前100年前とは大きく変わってきている。そんな中で、二宮町には児童養護施設があって、

多様な家族といったときに、ひとり親家庭だとか、施設で指導員や寮母と暮らしている子ども達もいる自治体です。そんな中では、「開隆堂」が唯一、多様な家族のあり方の中で、施設で暮らす子ども達、こういう姿も家族のあり方の1つだと書いている。施設の子供達が見たときに、自分たちのこの形も家族の1つだとすごく安心できる。そのことで、周りの子ども達も、学園の子ども達はとってくれる。これも二宮町で採用したい教科書だと悩みました。

(教育長) 少ない時間数の中で、どのような形で押さえていくのか、学びを深めていくのかを3社ともすごく工夫されていると感じました。3社とも将来を見据えた職業感とか勤労感を育成するための専門家や職業人からメッセージが取り上げられている。「東書」はプロに聞く、「教図」は先輩に聞く、「開隆堂」は先輩からのエールとして紹介されている。二宮町の2校では、幼稚園を訪問して交流をするということをやっています。そのような体験的な実践的な学びをするには、どうなのかという視点で見てみたところ、より実感的な学びができるのは、「教図」と思いました。衣食住の中の住では幼児とか高齢者の視点に立って、サザエさんやドラえもんの家、間取りを使っていて、より実感的な学びができると感じた。

(古正委員) 教育長の意見を聞いて、バージョンアップの必要なジャンルに特に長けているのが、「教図」だったと感じている。

(教育長) 「教図」の意見多数を受け、各委員に技術家庭の家庭の「教育図書」について諮る。

委員全員異議なし。

[外国語の英語について]

(古正委員) まず、「光村」はスタートカリキュラムというところにページを割いている。これが良いと思いました。それから、英語を使う必然性のある場面の設定の仕方が、とても自然で、日本で暮らしていても、この場面に遭遇したら英語を使わないと駄目だという設定の仕方が上手い。だから、自然に英語での学習あるいは英語でのペアワーク、英語でのグループワークを子ども達も、すんなりと受け入れられる教科書になっていると思っています。英語をコミュニケーションツールととらえていると思います。二宮町の教育方針の中に、令和6年度の重点的な取り組みの中に、英語教育推進事業を取り上げていて、コミュニケーション能力を育成する事業づくりと明記している。そこにぴったりの教科書だと感じたのが、「光村」でした。それから「啓林館」も良いと思いました。巻末に1年生の基本文が2ページ使ってまとめてあった。かわいいイラストが添えられたワードボックスがあって、そこに基本的な単語がまとめてある。これは小中の連携とか、小中一貫教育を推進している二宮町では、中学1年生の教科書は小学校との繋がりを意識して作られている教科書を採用できたらと思いました。また、2年生の教科

書には、1年生で学習した基本文が載っていて、3年生では1・2年生で学習した基本文が載っていて、それぞれの学年の復習として、その学年で習った基本文が載っていてとても良い作りになっていると思いました。

(岡野委員)「東書」と「光村」が有力と感じました。まず、「東書」は、英語を学ぶよりも、英語に慣れる、体に染み込ませることが必要、わざわざ学ぶことじゃなく、体に馴染んでいくことが必要と感じました。「東書」は、スモールトークっていうコーナーがあり、些細なやりとりを繋げていく部分が入りやすいと感じた。巻末のCANDOLISTが特徴的だと感じました。また、単元の後ろを見ると、小学4年生の国語で出てくるごんぎつねが英文になって出てくる。おそらく子ども達はストーリーが体にしみこんでいるので、あの流れを英語で読み取る。日本語がわかっていて、ストーリーも知っているものを英語で読み取っていく、関連の仕組みが工夫されていて面白いと感じました。一方で「光村」は、まずストーリー性がきっちりある。1年生だけでなく、3年間通して、この登場人物たちのドラマが先にあって、この楽しさが、英語への興味をいざなう仕組みになっていると感じました。このドラマが非常によくできていて、ストーリー性がばっちりとできている。教科書を見ていくとタイプが2つある。最初に英語があって、その英語を使うために場面が後から設定されているのではなく、先にストーリーがあってそこに英語を載せていく感じがしました。単元の並びに飛躍がなく、単元間の小ネタも含めて全部ストーリーが繋がっているというのが感じ取れました。特徴的なところはパート1で1年生の教室のシーンから始まることが多いが、「光村」の場合は、まず教室に行かないで学校に向かう途中で道に迷うシーンから始まる。パート2もまだ学校に行っていないで、ささいな会話のところから、パート3でやっと学校に到着してストーリーが始まっていく。ドラマに近い設定が際立っていると感じた。ストーリー性を大事にする二宮の英語教育の根本的な方針があって、そこにしっかり載せていける教科書と感じた。

(杉本委員)「光村」ですけれども、やはり中学1年の娘がいるので、本当に読んだときに次が楽しみになるストーリー性が子ども達も楽しんでいると感じる。あと最初の方にキーズトゥーコミュニケーションと言って、笑顔とアイコンタクト、はっきりとした声とやりとりの4つのポイントが大事だと書いてあって、英語に対する価値感をちょっとずつ変えて実際にコミュニケーションツールの1つだと伝わりやすくなっていると感じました。

(岡野委員)各学年にこの表紙裏に、どのように英語を学ぶのでしょうかというタイトルの折り込みのページがありました。特に2年生の伸び悩みについて出ていて、必ず停滞する時期が来るけどそこを踏ん張れば、必ず伸びるっていう伸び悩みのグラフがあり、苦しいけど今ちょっと頑張って乗り越えようっていうメッセージが強く伝わってくるページがあり良い。また4人の登場ドラマの後に、ちゃんとその文法的な視点で見たときに、今回の会話は、文法でこんな取り扱いになることが後から添えてあるような感じ

がして、抜かりないと思いました。4人の登場人物のドラマにストーリー性があって、そこに文法を後からつけていくのは、楽しい教科書だと感じ取ることができました。

（教育長）今は小学校で外国語活動をやり、それから英語ということになりますから、その橋渡しを各社とも読ませていただきました。その中で各社とも工夫をされていると感じたが、この中でも私は「光村」のなぜ英語を学ぶのかというところで、1年生は英語を使う楽しさを見つけ、2年生が日常生活から少しでも視野を英語を使って広め、3年生は世界の人と一緒に考え、ともに未来を切り開こうという英語の捉えが発展的にとらえられている。しかも、どの学年にも学年ごとの目標が明記されていて、該当学年の文字が大きくなっているということで小学校の外国語活動をどのように伝えたらいいのか検証した方がいいのかという捉えがよいと思いました。そして、各委員がおっしゃったように、このストーリー性が、非常に読みたくなるような流れになっていると感じました。

（教育長）「光村」の意見多数を受け、各委員に外国語の英語の「光村図書出版」について諮る。

委員全員異議なし。

〔特別教科の道徳について〕

（岡野委員）道徳の場合は、まず自分自身と向き合う、次が人と触れ合う、3番目が社会の中で活動する、4番目が、より崇高な世界へ気持ちを持っていくその4階層と思います。それを考えていく上で、取り扱う題材もさることながら、設問の設定がすごく大事だと感じました。私は「東書」、「教出」、「光村」の3社に注目しました。この3社を比べると、まず単元の導入の部分の構成については、「東書」は軽い問いかけが設定されている。そのあと単元の後に考える、見つめる、深めるの3つ課題が設定されている。一方「教出」は軽い問いかけがあり、単元の後に設問が、学びの道しるべにありました。「光村」も単元の前に設問があり、考えようが2問、見方を変えて、つなげようがそれぞれ1問。それぞれの設問の飛躍度がかかなり違っていると感じました。どこの会社も1問目は、その単元の中に関する設問ですが、2問目にあなたにとって友達はどんな存在ですかみたいな考える抽象度がいきなり上がる感じの設問がありました。その意味でいうと、「東書」の設問のステップの上がり具合が一番適当と感じた。それ以外にもいろんな項目で比べさせていただきましたが、いじめに関する項目も「東書」の内容が一番心に残る感じがしました。2年生の中盤の「あの子のランドセル」では、最後の方で「私が傷つけたのはランドセルだけじゃない、もう絶対にしない」の文章で終わる。この最後の一文がとっても効いていると思う。これはすごく良い素材だと感じました。一方で、キャリア教育の視点で見ると、「東書」が3年間を通して、1年生の初旬でキャリア教育の場面が一番早く登場する。東北新幹線の車内清掃に関する記事。プライドを持って仕事に取り組むという内容ですが、ここが一番早く登場しています。同じような題材が、「教出」は2年生の中盤。キャリア教育ネタは充実しているが、私が注

目したのは、「光村」の1年生の後半、撮れなかった1枚の写真。これはジャーナリズムの端っこの葛藤描いた記事だと思う。ニューヨークのスラム街であるお母さんにカメラを向けた、でもシャッターは押せなかったっていう記事です。なぜ押さなかったのかをよく考えようっていう記事で「教出」が4年前の教科書で「ハゲワシと少女」を3年生中盤に載せていたのですが、今回「光村」は同じ趣旨の記事を1年生終盤に持ってきていました。この辺のチャレンジさや設定がすごいと感じました。

（古正委員）全部の教科書を毎日鞆に入れて持ち歩きたいくらいに、良い話だと感じた。こんな自分になれたらいいとか思いながら、読ませていただきました。「日文」の別冊の道德のノートですが道德が教科化される前の心のノートもよかった。その昔の道德の授業は、ほとんどやりっ放しだったり言いつ放しだったりとか、中には国語や算数と同じように、きちんと大学ノートで道德のノートを用意させて、みんなの意見や、自分の学んだことを書かせる先生もいたようですが、やっぱりここにそれぞれの時間に思ったことや、友達の意見の中で良いと思ったことを留めておくことは、あとで自分の学びを振り返るときに、とても役に立つ。これが言いつばなしやりっ放しとか、その日ごとにワークシート1枚配るのだと無くしまう。今はキャリアパスポートなんていうものが学校現場で使われていて1年間を振り返ったり、数年間の自分の成長を振り返ったりする。そんなときに、この別冊が私にはありました。それから「光村」も良いと思いました。教材1つ1つの持っている力が素晴らしいし、その教材に続く見方を変えてとつなげるように書かれている問いも道德的価値に迫れる、良い設問だと感じました。また著作編集以外に7つの視点で、この教科書を校閲されている。7つの視点からはすごい。私すべての教科書を、著作編集、どんな人がやっているのか、ここにはアルファベットで名前を書かれている人、これはネイティブの人だとか見ながら、検討していました。さらに著者とか編集以外にどんな視点で、この教科書を監修、校閲しているのか見ていましたが、7つの視点はすごい、それだけこの道德の教科書づくりを、丁寧にそしてしっかり作り込むという手法が現れていると思いました。

（杉本委員）「光村」の道德の学習を始めようということでポイントが3つ書いてあって、その第1のポイントに答えは1つではないという明記があって、この問いかけがすごく大事だと思っている。また次に道德で大切にしたいことが3つあり、自分に問う、友達と問いかう、生き方を問う、ということで、深いテーマがあって、そこも惹かれました。

（教育長）道德科の一番のポイントはやっぱり自分をまず見つめること、自分はどうかとそれを見つめながら、やっぱり物事を多面的多角的にとらえる。そのためにはいろんな視点から、自分以外の考え、多様な考え方と出会い交流する議論する道德が大事だと思う。そういう意味では、各社良いところがあるが、二宮が小中一貫でやってきて、やはりその心情をどう表現するのか、心情図を扱っている「東書」が良いと思いました。ピンクと水色で、自分の心情の考えを持ちながら表現していく。自分の考えや気持ちを見える化する、実際に小学校1年生からやっています。2年生ではiPadを使ってそれをお互いに見せ合ったりしています。その中では小中一貫の学びを考えていったときに、学び合う対応的なツールとし

で持っている、この「東書」の心情図が大きいと思いました。読んで話し合うだけでなく「東書」はそれぞれ様々な体験的な活動、リフレーミングあったりとか、ロールプレイがあったりとかするようなことを散りばめられていて、ただ良いものを読むだけが学びじゃないことを実現ができると思いました。それと教材が伝統的な昔からの教材もあれば、新しいものも取り上げられていてそのバランスも良いと思いました。

(教育長)「東書」の意見多数を受け、各委員に特別教科の道徳の「東京書籍」について諮る。

委員全員異議なし。

(教育長) 各委員に、審議した結果を議案第 10 号として諮る。

委員全員賛成により、議案第 10 号は承認される。

また、ホームページへの公開についても了解を得る。

(4) 議案第 11 号 令和 7 年度小・中学校使用学校教育法附則第 9 条による教科用図書採択について

(教育指導課長) 令和 7 年度小・中学校使用学校教育法附則第 9 条による教科用図書採択について資料に基づいて説明

(教育長) 委員に議案第 11 号について諮る。

委員全員賛成により、議案第 11 号は承認される。

5 報告・協議事項

(1) 二宮町体育施設のキャンセル手続等に関する要綱の一部改正について

(生涯学習課長) 二宮町体育施設のキャンセル手続等に関する要綱の一部改正について資料に基づいて説明。

(2) 令和 7 年 20 歳のつどいについて

(生涯学習課長) 令和 7 年 20 歳のつどいについて資料に基づいて説明。

(古正委員) 実行委員は、公募ではなく学校から推薦となっているのか。

(生涯学習課長) そうなっている。

— 次回教育委員会予定 —

(教育総務班長) 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

(5) 議案第 12 号 温水プール跡地利用に関する検討について

(生涯学習課長・班長) 温水プール跡地利用に関する検討について資料に基づいて説明

－ 非公開 －

13時55分 閉会